

研究・調査報告書

| | | |
|---|-------------|--------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-169 | A-151 | 20-037 |
| 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 | | |
| 題名 (原題/訳) | | |
| <p style="text-align: center;">Association of Low to Moderate Alcohol Drinking With Cognitive Functions From Middle to Older Age Among US Adults</p> <p style="text-align: center;">中高年のアメリカ人の低中等度の飲酒と認知機能との関連</p> | | |
| 執筆者 | | |
| Zhang R, Shen L, Miles T, Shen Y, Cordero J, Qi Y, Liang L, Li C. | | |
| 掲載誌 | | |
| JAMA Netw Open. 2020 Jun; 3(6): e207922. doi:10.1001/jamanetworkopen.2020.7922 | | |
| キーワード | PMID | |
| 認知機能、語想起、語彙 | 32597992 | |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： 低中等度の飲酒は認知機能を改善するという報告や、低下させるという報告があり、議論が分かれているのが現状である。そこで本研究では、中高年の成人のアメリカ人で低中等度の飲酒と認知機能が関連しているかを検討した。</p> <p>方法： 成人のアメリカ人を代表するサンプルとして、Health and Retirement Study (HRS)から集められた対象者に対し前向きコホート研究を行った。追跡期間は9.1年(標準偏差3.1年)であり、19,887人が1996年から2008年のHRS開始時と、少なくとも3回の隔年調査で認知機能を測定された。精神状態、語想起、語彙、さらに精神状態と語想起スコアを合計した総合認知スコアの一年あたりの変化率を測定した。参加者は認知機能スコアにより2つの群(低認知機能レベルで推移する群と高認知機能レベルで推移する群)に分けられた。</p> <p>結果： 19,887人の参加者の平均年齢は61.8歳(標準偏差10.2歳)。その内、女性の参加者は11,943人(60.1%)、白人の参加者は16,950人(85.2%)であった。低中等度の飲酒(女性は週8杯以下、男性は週15杯以下)は有意に高認知機能レベルで推移する確率が高く、認知機能低下率も低かった。非飲酒者と比較し、低中等度の飲酒は一貫して低認知機能レベルで推移する可能性は低く、総合的認知機能(OR,0.66; 95% CI,0.59-0.74)、精神状態(OR,0.71; 95% CI,0.63-0.81)、語想起(OR, 0.74; 95% CI,0.69-0.80)、語彙(OR,0.64; 95% CI,0.56-0.74)で、全て $P<.001$ であった。更に、低中等度の飲酒は一年あたりの総合認知機能低下率は低かった(β係数,0.04;95%CI,0.02-0.07; $P=.002$)、精神状態(β係数,0.02;95%CI,0.01-0.03; $P=.002$)、語想起(β係数,0.02;95%CI,0.01-0.04; $P=.01$)、語彙(β係数,0.01;95%CI,0.00-0.03; $P=.08$)。低中等度の飲酒は黒人(OR,1.02;95%CI,0.74-1.39)より、白人(OR,0.65; 95%CI,0.56-0.75)の方が、低精神状態レベルになる確率が有意に低かった。最後に、飲酒量と全認知機能の関連は全ての参加者においてU字型で、最適な飲酒量は週間10-14杯であった。</p> <p>結論： 低中等度の飲酒は良好な総合認知機能スコアと関連があり、その関連は黒人より白人で強い。今後は中高年者の飲酒と認知の関連のメカニズムを調べる研究が必要である。</p> | | |